

第1回総合教育会議 要旨

○日 時：令和7年10月24日（金）16:30～18:30

○会 場：山ノ内町文化センター 3階 ホール

○出席者：町長、教育委員4名、教育長、南小学校長、教育次長、生涯学習課長、総務課長、総務係長、
保育・幼児教育係長、文化創造推進係長、中央公民館長補佐、給食センター所長、
学校教育係長、教育指導主事、学校統合準備係長、学校統合準備係2名

（欠席者）：山ノ内中学校長、東小学校長、西小学校長、副町長、中央公民館長、スポーツ推進係長

傍聴者：4名／報道関係者：3名 ※詳細別紙

1. 開会

望月教育次長より開会の宣言および会議公開の宣言を行う。

2. あいさつ

【町長あいさつ】

山ノ内町は少子高齢化が進む中で厳しい状況に直面するが、町の魅力をつくり上げるためにこどもたちの教育が非常に重要である。教育長を筆頭に、現在の小中4校の改善を図るとともに、これから検討を進める統合学校をより魅力ある学校にすることが目標である。

また、山ノ内町の魅力とは何かを定義し、それを確立するための「プロモーション戦略」の策定が必要である。この前例のない道のりを進むにあたり、この場で皆がしっかりと意見を出し合い、議論を重ね、共に未来を築き上げていくことを要望する。

【教育長あいさつ】

この総合教育会議は、町長と教育委員が教育行政全般について直接懇談する大変重要な機会である。本日は、前半で学校統合の進捗状況を共有し、後半で統合以外の教育行政全般について町長と意見交換を行う。

今年3月の会議で統合学校の基本方針が定められ、4月以降は教育委員会が一丸となり、ほぼ毎月「学校づくり準備委員会」を開催し、新しい学校づくりの具体的な内容について活発かつ忌憚のない意見交換を重ねている。

開校は令和12年と約5年先であるが、議論を重ねるうちにこの期間はあっという間に過ぎると予測される。現在および未来のこどもたちのためにしっかりと未来に残せる良い学校を目指し、本日の会議でも率直な意見交換を期待する。

3. 会議事項

町長の意向により、竹内教育長が座長を務める。

（1）山ノ内町立学校の統合について（事務局説明）

- 令和12年(2030年)4月の開校を目指し、山ノ内中学校敷地に小中一体の義務教育学校を設置する基本方針が、3月の会議で合意形成された。
- 本年5月山ノ内町立学校づくり準備委員会を設置し、統合学校開校に向けた検討がスタートした。
- 学校づくりコンセプトはブラッシュアップし、既存校舎活用による「一体感」の創出や、コミュニティ・スクールを通じた「こどもと大人が共に学び育つ」施設整備を重要視する4項目を新たに追加した。
- 来年度の施設整備に係る基本設計に向け、必要な施設の整理が行われている。
- 令和12年4月の学校統合により、町内3つの小学校が廃校となる。
- 保護者・地区懇談会では、子育て支援施設、放課後児童対策、文化施設、観光・農業貢献施設としての活用意見が出た。
- 空き施設となる校舎の利活用については、まちづくりに生かすための施設として活用する必要があるため、一度町に移管し教育委員会と町部局が一体となり検討を進めていく必要があると考えている。

【教育委員と町長との懇談内容で出た意見】

(教育長)

- 5年後の新しい学校づくりと廃校となる小学校3施設の活用を合わせ、まちづくりという観点から議論を進めていきたい。小学校3校・中学校1校が1つの学校となり、山ノ内町全体がこどもたちの育ちと学びのフィールドになるというイメージを共有し意見を求めたい。
- 各教育委員からここまで学校統合に係る議論の感想と、今後の学校づくりで特に大事にしたい点(ハード・ソフト問わず)について、一人ずつ発言をお願いしたい。

(教育委員)

- 統合学校の準備に伴い、牛久市のおくの義務教育学校を視察した。牛久では他の小学校からの通学できる制度でこどもが増えており、町長が以前話した「魅力ある学校をつくることが定住者増につながる」という考えを痛感した。
- おくの義務教育学校は既存中学校に小学校を併設させる形で、自分たちがイメージする義務教育学校に近いと感じた。中途半端なことをせず、一貫した教育を通してこそ魅力が出てくると感じる。
- 今後は山ノ内町らしい特色を生かしながら、ESDやユネスコスクールのような特色ある部分について議論を進める必要がある。

(教育委員)

- 統合小学校に向けて、義務教育学校とコミュニティ・スクールに魅力を感じている。
- 上田市立北小学校では、地域の方が主となり17クラブ(スポーツ、茶道、琴、地層・化石、冒険など)の活動が行われていた。これを参考に、山ノ内町でももっと特色が出せるのではないかと感じる。
- 牛久市のおくの義務教育学校では、放課後や土日にこどもたちの体験や学習の場となる「カッパ塾」が行われており、地域のカッパ伝説にちなんだ名称はこどもや地域にも馴染みやすいと感じた。
- おくの義務教育学校の校長から「地域の方に声をかければ、山ノ内の多様な特色を持つ人々が協力してくれる」という話を聞き、今後は山ノ内町の多様な人に声をかけ、特色ある教育を提供したい。
- 統合時、自身のこどもたちは前期課程と後期課程の最高学年にいることになる。視察で見たような「大人もワクワクするような仕組みや学校の作り」を山ノ内町の学校でも作り込んでいけたらと思う。

(教育委員)

- 野沢温泉村ではスキーと英語に特化した教育を行っている。

- ・ コンセプトの一つである「スポーツ芸術の推進」について、雪が多く降る山ノ内町の特色を前面に出し、こどもたちにスキーをやってほしいと強く願っているため、スポーツ芸術の中に組み込むべき。
- ・ 以前は年2回あったスキー教室が1回に減ったことが非常に残念であり、こどもたちの体力面、健康面、冬場の運動不足解消のためにも、せめて2回は実施してほしい。
- ・ スキーなどのフィールド活動は、外国人との触れ合いを通じて学校での英語学習を実践し、関心を持つ良い機会になる。
- ・ コミュニティ・スクールは地域の特色を生かす仕組みだが、地域の方が生きがいを持つためにも、ともに活動していくことが不可欠。

(教育委員)

- ・ 上田市立北小学校での視察で地元の方が先生となるクラブ活動(茶道・地質など)を見学した。
- ・ 富岡市の子育て、健康プラザは、子育て全般を見てくれる良い施設だと感じた。
- ・ 利根町の健康増進と複合施設(廃校舎利用)の視察では、高齢者が多く利用しており、統合学校の廃校舎利用について、こどもだけでなく高齢者利用も議論すべきだと感じた。
- ・ 牛久市のおくの義務教育学校は大勢の関係者で議論が進められて作られた学校であると感じた。山ノ内町も開校まで5年あるため、現在の準備委員会の良い雰囲気で議論を進めていきたい。

(町長)

- ・ 日本の社会的な構造(女性リーダーの少なさなど)が変わってこられなかったことに危機感を感じている。少子高齢化で社会構造が変わる難しい時代において、義務教育校への方向転換は大きなチャンス。
- ・ こどもは10人いれば10人の受けとめ方が違うため、細かいニーズに応えながら多様なチャンスを与えてあげるべきである。
- ・ こどもの数が減った分、一人当たりの教育にかける費用が増える時代であり、教育にはお金をかけても良いと考える親御さんも多い。越境して帰ってくるような魅力ある学校を考えたい。
- ・ 柏のラグビースクール創設者との議論から、インターナショナルスクールではなく、日本語と英語を交互に使う授業のバイリンガルクラス設けてみてはどうか。日本の英語教育の構造的欠陥を解決し、一つのカリキュラムを両言語で学ぶことで、こどもがマルチに言語を切り替えられるようになる。普通のクラスとバイリンガルクラスを少人数でもよいので設置できないか教育長に相談している。
- ・ 教育格差が生まれないようにすることに、特に力を入れたい。都会ではIT系の塾など多様な選択肢があるが、山ノ内町では少ないことで格差を生む。スポーツクラブでの多様な種目の実施や多様な放課後活動を行うことで、こどもの才能の目を開く「可能性の場」をつくっていきたい。
- ・ 放課後児童対策と絡めて、親が夕方まで迎えに行かなくても良いプラットフォームを作り、子育て世代にとって住みやすいまちづくりをスピードアップして実現したい。

(教育委員)

- ・ 町長の提案に共感する。ALTを保育園から配置できれば英語での授業も夢ではないのかもしれない。山ノ内町は塾が少なく不利なため、放課後にAIを活用したオンライン塾を個々のスピードに合わせて利用することも検討すればよいのではないか。
- ・ 放課後に個々の学習スペースとスポーツクラブを併設して取り組めるような場を整備し、こどもたちが同じ場所で多様な活動できる環境は、親として非常にうれしいと思う。

(教育委員)

- ・ 都会と比べて山ノ内町では、選択肢が少なく何かに挑戦してみる機会がとりにくいと思う。こどもたちは知らないと試せない、試さないと自分の力を確認できないため、大人としてこどもたちの選択肢を増やすことが、新しい学校づくりやコミュニティ・スクールを通じて必要である。
- ・ 視察した富岡市のファミリーサポート制度に共感した。山ノ内町でも同様のサービスがあるが、なかなか利用されていないため、地域の方に利用してもらえるような仕組みづくりが、安心して子育てができる環境づくりにつながると考える。

(教育委員)

- ・ 部活動の地域展開の進捗状況を確認したい。地域展開により、遠距離通学やこどもにとって部活動が入りにくくなる懸念、教職員の働き方改革にはなるが、こどもが身近なところで学べる環境が失われている状況を懸念している。

(教育長)

- ・ 部活動の地域展開は国、県、市町村で進められており、山ノ内町も中学校で完結できる状況や、地域全体で支えていく環境をスポーツクラブも含めてつくっていく方向性である。
- ・ 空き校舎の活用について委員からも意見をいただいたが、学校施設としては使用しないため一度町に移管し、町の施設として幅広い視点で考えていくべきと考える。また、教育委員会としてもいろいろ提案をし、議論を進めていきたい。

(2) 教育行政について

(教育長)

- ・ 昨年度から教育委員会はこども未来課と生涯学習課の2課体制となった。生涯学習や文化、スポーツ、人権の観点から教育委員の意見があれば発言をしてほしい。

(教育委員)

- ・ 生涯学習はコミュニティ・スクール(C・S)と関連が深い。山ノ内町に移住する外国籍の方への対応として、日常使用する言語が日本語ではない方もC・Sの仕組みに参画してもらい、多様な発想でC・Sを発展させることができ、町の特色となり生涯学習につながるのではないか。

(教育長)

- ・ 外国籍の方の増加に伴い、グローバルな人間関係が当たり前になる中で、生涯学習分野における人権教育がますます重要になる。

(教育委員)

- ・ 社会体育で学校の体育館を利用しているが、利用者が片付けを適切に行わず、学校の負担になっている。公共施設として使用後の片付けの徹底してほしい。

(教育長)

- ・ この問題は社会体育だけでなく、学校教育との接点であり、今後はコミュニティ・スクールという枠組みの中で、皆が気持ちよく使える仕組みをつくる必要がある。

(教育委員)

- ・ 個人的な活動の経験から、大人でも新しい経験をすることで「新たな自分を発見」し、それが「またやりたい」「様々なことに興味が出てくる」ことにつながる。学習に年齢は関係なく、こどもたちに選択肢を与え、可能性を広げることが生涯学習につながると思う。

(教育委員)

- 自身のテニスや尺八、小中学生への書道教室といった活動をしている。体と頭が続く限り社会教育に携わっていきたい。

(町長)

- 体育館利用についてはスポーツクラブ側と確認し、使用した場所を綺麗に戻すよう対応させたい。
- 国際交流として、アメリカからのピックルボール団体との交流があった。町に世界チャンピオンがおり、新しい動きを町民との接点に活かしたい。
- 生涯学習では文化とスポーツの両面を推進する必要があり、長寿の理由の一つである体を動かす機会を高齢者と子どもが一緒に楽しめるプラットフォームをつくっていきたい。
- 日本人はスポーツを生活に取り込むのが苦手と感じている。今後、町として体を動かすことが身边に感じる施設を用意したい。

(教育長)

- 大人が精神的・時間的な余裕を持ち楽しく暮らすことは、子どもたちにも良い影響を与えることから、文化芸術活動は重要と考えている。教育委員はロマン美術館に行ったりしているか。

(教育委員)

- ロマン美術館について、「敷居が高い」という印象があり、なかなか行かない。

(町長)

- 広報伝言板にロマン美術館の無料券をつけているが町民の利用率はどのくらいあるか。

(事務局)

- 無料券の町民利用者は非常に少ない。

(教育委員)

- すがかわふれあいセンターは旧北小学校の跡利用で児童クラブも併設されている施設である。学校統合後の3小学校の空き施設にも応用できる可能性がある。当初、会議室にエアコンがなく後付けになったため、初期設計での配慮が必要と思う。
- 学校施設の後利用を考えるにあたり、地域の防災施設としての位置づけも考慮し、災害時の暖房・冷房への対応も必要になってくる。

(教育長)

- 児童クラブや給食センターの今後の在り方について、意見があれば発言してほしい。

(教育委員)

- こどもたちは給食に満足しているようだ。
- 給食センターは統合学校整備に合わせて、費用的な精査をしながら検討すべきである。
- 保育園の給食について、おかずだけでなく米飯も園で用意してほしいという親の要望がある。学校統合で配達が減れば、給食センターで対応できるか検討したらどうか。

(教育委員)

- 学校給食について、視察先の学校で見たエレベーター配膳の仕組みが大事だと感じた。
- ジビエ給食(熊肉等)をこどもたちに提供することも、地域性や生き物を大切にする意味で良いのではないか。

(教育委員)

- 空き校舎ができたら、地域の人も利用できる給食カフェのようなものをやったら良いのではないか。

(教育長)

- ある私立学校では「みんなの食堂」というものがあり、地域住民とこどもが食を通じて交流できる場になっている事例もある。

(町長)

- 児童クラブは放課後の重要な場と認識している。さらに、学校統合時に空き施設を利活用し、塾やスポーツの要素を含んだことができる施設も検討していく必要がある。
- 給食センターは新しい学校に組み込み、校内配膳にするなど、規模縮小や別の方針などを検討するよう指示している。
- 学校統合は中身づくりが重要であり、町民や保護者にもっと参加してもらい、ランチルーム・カフェなどのアイデアを活かして良い学校にしていきたい。
- ロマン美術館は黒川紀章氏設計の建物を残す方向で維持に努めており、広報誌に無料券を付けたり、町民割引をするなど町民の利用者増を図っていきたい。また、楓の湯の無料券も一緒につけられたらと思う。
- 公共施設の集約として、学校統合を機に公民館なども集約し、児童クラブも統合のタイミングで一箇所にまとめて充実させるのが現実的だと考えている。
- 空き施設(3 小学校)は全て町で維持するのは難しく、一部を子どもの施設などに集約し、残りは売却や外部との連携も視野に入れる必要がある。
- 学校統合後の建物設計は「中身があってこそ」であり、教育委員に知恵と工夫で、こどもたちが使いやすい設計の議論を尽くしてほしい。

(教育長)

- 教育や文化、スポーツへの投資は町の未来につながる重要な投資という認識のもと、町長と教育委員会が一体となって最大限の努力をしていく。
- 今年度中に学校整備基本方針をまとめ、来年度以降は統合学校の基本設計、実施設計を進めるため、町長と教育委員会が一枚岩になって進んでいきたい。

(教育委員)

- 費用のかからない施策として、現行の小中学校向けスクールバスに、町内在住の高校生が通学目的で便乗(共乗)できる仕組みを検討してほしい。町として高校生の定期券補助をしていることから、これに加えて高校生の通学支援の検討をしてほしい。

(教育次長)

- 制度的な面で確認が必要となるため、改めて精査し検討していきたい。

(3)その他

特になし

4. 閉会 (18:30)

教育次長より閉会の宣言を行う。